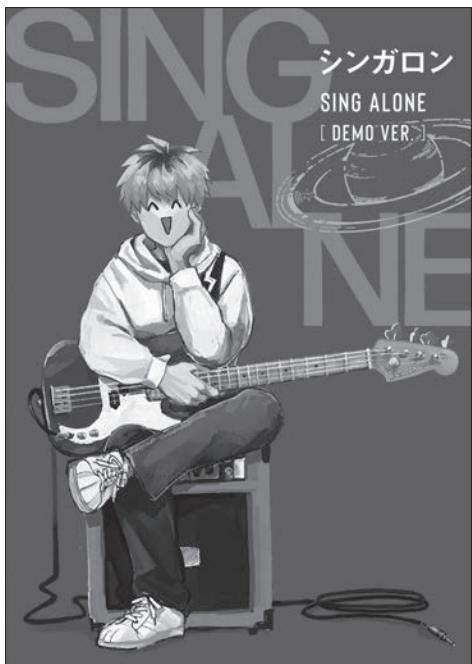


『シンガロン』続き掲載



新作小説『シンガロン』の続編の制作が遅れている。3月23日に「デモ版」として冒頭3話を発表したが、正式版リリースの見込みが立たず、いつまでも新刊を出せないでいた。特例として本紙で「デモ版」の続きをあたる原稿（約6000字）を掲載する。掲載原稿は制作中の文章であり、正式版では内容が変更される可能性が高い。作者の山川夜高は「デモ版がすでに『チラ見せ』なのに追加の『チラ見せ』をしたくなかったが、本当に各所に掲載する内容が無いため止むを得なかった」と陳謝した。

◀『シンガロン [DEMO ver.]』・作＝山川夜高
2025年3月23日発行・A5判54ページ

「進捗ダメです」 作者陳謝・原稿チラ見せ



2025年9月21日
日曜日

「お詫び小説」掲載

次ページから・約6000字

『シンガロン』はウェブサイトで連載している架空のロックバンドの小説シリーズ『Drive to Pluto』(<https://libsy.net/dtp>)の作品。西暦2000年前後の東京・八王子市や中央線沿線地域を舞台に、新人ベースギタリスト・カシマ(嘉鳴元気)が大学のサークルの肝試しで「呪われた」事件をきっかけに僧職のギタリスト・土家と出会い、ロックバンド「環-Tamaki-」を結成するというストーリーだ。デモ版ではバンドメンバーの出番から初ライブまでを描いたが、正式版では環-Tamaki-のバンドメンバーであるギタリスト・弟子丸(でしまる)とドラマチックなサブストーリー、カシマが出合った同世代のバンド「This Earth Is Destroyed」や先輩バンドとの交流を描きながら、広げた大風呂敷をなんなかうまくいじめある方針だ。

サイト改装も大幅に遅延

作者の山川夜高は、シーサイドブックスのウェブサイト(<https://libsy.net>)の改装も予定していたが、いわゆるワイヤースの目処が立っていない。山川は「全体的に課題はあるが、自分は一人しかいないため人手が足りない。それに、もし自分が分裂したとしてもPCは一台しかない」と語った。

表紙元ネタ・徳川家康の「例の絵」か

『シンガロン [DEMO ver.]』の表紙について、タスマ美術大学の綿貫雲名誉教授は『徳川家康三方ヶ原戦役画像』＝徳川美術館所蔵が元ネタであり、作中のカシマの「やつちました感」を重ねている。しかし『三方ヶ原戦役画像』は神格化された家康を描いた後世による想像図であり、家康の姿勢は仏教の座法のひとつである半跏趺坐を描いているときれる。よって表紙のカシマもまた仮性を示している」とWikipediaの記述をつぎはぎした与太話を披露した。

海辺新聞は
新作情報
近況報告
与太話 (セルフパロディ)
をお届けする
フリーペーパーです

つまるところ
フィクションです

次ページから『シンガロン [DEMO ver.]』の読了者向けに、『シンガロン』本編の制作中の抜粋を掲載します。内容はデモ版の物語終了直後の出来事を描いています。
紙面の都合で詳細なあらすじを掲載できないため、『シンガロン [DEMO ver.]』未読の方には説明不足の内容＆ネタバレになることをご容赦ください。

作中には同世界観によるロックバンドを題材にした小説『ファンダム』の内容の言及を含みます。

ねずみちゃん
LINEスタンプ
なるほどね
40種
好評
配信中

「ぼくたち」は波形のまにまに、
あなたがさんかくの
ボタンを押すまで
待っている。

あるロックバンドの「逸話」
Drive to Pluto

表紙も本文もつくれる!
文芸 デザイン 制作
同人誌向け 特殊装丁や印刷所の相談も◎
できること・制作事例など▶ libsy.net/order

表丁部 by SeasideBooks

『シンガロン』制作中本編抜粹



NOO1年1月

呼び出しがかかったのは、初陣後の打ち上げ会の酒の席の発言を皆が覚えていた事だった。

ライブハウス〈吉祥寺SHADE〉の店長・在原は終演後、SHADEの近所の焼鳥屋に環一Tanakiの一回を連れて、いつ飲み食いさせた。「いい炊き込みご飯がおいしいんだよね」と店長が言ったのを覚えている。

皆がビールの2杯目を注文し、カシマはジョッキに入ったジンジャー・エールを飲んだ。注文はあらかじめ机の上に届いたか皆の

賃袋のなかに收まり、おのの煙草に火を灯したタイミングで、在原は「これはみんなに言ってるんだけどね」と前置きしてこだましとお話しはじめた。

俺のふるい友達がインディーズの音楽レベルをやってるんだ。うん、ロックの。で、今はとにかく若手の新しい音楽を探しているんだって。だからうちで演ってくれたバンドは一部全部そいつに教えることにしてるんだけ……

「ボク……録音、ないですよ。」と土家がスキンヘッドの頭を搔く。「こいつが入る前は、2曲入りぐらいのEPは作ったんですけどね」と土家がス

「ああ、いいよいよ、急がなくて。いま

はメンバーと一緒にボーカルがふたりになつたって話を伝えとく。それで、どうかな? 伝えといてもいい?」

という在原からの問い合わせも本気にしてなかった。SHADEのイベントに出演する

際、スリーピースの環のサンプル音源は和田経由で在原の手元に渡っていた。だからそのまま二つ返事で了承したのをまだ皆が覚えていた。在原から進展を聞かされたのはそれからほんの数日後、まだ2000年

12月中の出来事だった。在原から和田に電話がかかるて、取り次いだ。

「とりあえず会いたいから来てくれただで。できれば全員」と和田から。

「忙しいんだがなあ」電話を取った土家が答える。年末年始の寺院は書き入れ時だ。

「向こうもそうみたい。年末年始はホテルカリフォルニアで21世紀スキソイドマンがニューオーリンズ・パーティー? でアメリカに飛んでるから連絡は年明けにくれ、たつて。できれば全員」と和田から。

「忙しいんだがなあ」電話を入れ時だ。

「ほんとに来んの?」と土家は眉をひそめる。さっきスクランブル交差点を通ったときにも「うわあ、コギャルだあ」と口走っていた。ギャルは吉祥寺にもハ王子にもいたのだが。

指定の7階の扉にはスクリプト体で〈Finedge Records〉と名前が掲げられている。Fの字はエンダー風の逆向きの意匠だ。擦りガラスの扉にはロックバンドの名前を挿いたステッカーが節操なく貼られて

いた。「あんぐださあ」と土家が言いつぶやき声を上げた。ソファでくつろいでいた猫は笑った耳をピンと立てて、大勢入ってきた来客に目を丸くしてのっそり起きた。

呼び出しベルを鳴らして「あんぐださあ、社長さん、お約束のある環ですが」と土家が言いかけている間に扉が大きく開いた。

「やあ! 遠路はるばるども」と迎え入れたのは、昨日まで二チでバカンスしていた弟子丸だ。「あれ? とと言わんばかりの見た目の男だ」と言わんばかりの見た目の男だ。

「あれ? とと言わんばかりの見た目の男だ」と言わんばかりの見た目の男だ。

「あれ? とと言わんばかりの見た目の男だ」と言わんばかりの見た目の男だ。

「あれ? とと言わんばかりの見た目の男だ」と言わんばかりの見た目の男だ。

「あれ? とと言わんばかりの見た目の男だ」と言わんばかりの見た目の男だ。

「あれ? とと言わんばかりの見た目の男だ」と言わんばかりの見た目の男だ。

「あれ? とと言わんばかりの見た目の男だ」と言わんばかりの見た目の男だ。

事務所に赴いた。汚穢なる大都会渋谷の喧騒と喧騒の間にせせこましく建つていて、用事がなければ絶対に入らうとは思わないような雑居ビル〈星野第三ビルディング〉に今までに用事があって面構えを見上げる4人。入居しているテナントはベルシャ絨毯屋、美容室2軒、税理士事務所、占いの館、マッサージ店、エクセラ、そして得体のしれない音楽出版社。

「ほんとに入んの?」と土家は眉をひそめる。さっきスクランブル交差点を通ったときにも「うわあ、コギャルだあ」と口走っていた。ギャルは吉祥寺にもハ王子にもいたのだが。

弟子丸が聞いたこともないような甲高い声を上げた。ソファでくつろいでいた猫は笑った耳をピンと立てて、大勢入ってきた来客に目を丸くしてのっそり起きた。太い胴体は渦巻き模様で、ふさふさの豊かな尻尾をもち、口元に紳士然としたヒゲ模様のある猫だった。「カイゼル髭」と和田が尋ねた。猫は見た目に想像されるよりもか細い声で「ナーハ」と鳴いて、何か言いたげに足下をうろついた。

「これほつちの愛付嬢」木場は足下に来た猫を抱きかかえた。冬毛の長毛猫であることを差し置いても見慣れた猫のサイズよりも巨大で、小柄な柴犬ぐらいの大きさであった。目に眩しいピンク色のボタニカル柄のアロハシャツに明るいベージュ色のジャケパンを合わせて、南国の海岸から帰ってきたばかりだから外し忘れているかのようだ。真っ黒い大きなレンズのサングラスを冬の東京でもかけたままの姿だ。

「どうも、木場さん……?」

面食らう土家の肩を木場はぱしんど叩き、やがて事務所内に招き入れた。

「そのシャツいいねえ! パイソン柄?」

「あらすじ」大学生のカシマはサークルの肝試しでトライアルを起こし、寺院へお祓いに連れて行かれる。寺の住職・土家とカシマは意気投合し、カシマは土家が主催するバンド・環-Tamakiに加入する。既存のバン

ドメンバーの弟子丸・和田にも認められ、カシマはバンドでベースを弾き、土家とのツインボーカルも担当

はじめめる。ライブハウス・SHADEでライヴステージを成功させたカシマたちだったが、彼らの音楽活動は思わず方へ向かうこと……。

●環-Tamaki- 4人組オルタナティブラックバンド。八王子で結成。

●環-Tamaki- 4人組オルタナティブラックバンド。八王子で結成。

嘉嶋元氣(かしま・げんき)
大学生。ボーカル・ベーススト。
なにかと間が悪い。

土家泰寛(つちや・たいかん)
僧侶。作詞・ボーカル・ギタリスト
ト。寺生まれで靈感が……?

弟子丸魁(でしまる・いさむ)
中古ギター屋店員。ギタリスト。
ちよろい。

和田幹央(わだ・みきお)
花屋。ドラマ・マイペース。

●ライブハウス〈吉祥寺SHADE〉
環が出演したライブハウス。

店長は元・パンクロックバンドのドラマーの在原(ありはら)。

と成人式を終えて、これからバレンタインデーや卒業・入学シーズンの花屋の繁忙期に向かう前の小休止の1月中旬に、土家・弟子丸・和田・カシマは指名された渋谷の

お寺と花屋は毎年いそがしく迎える新年未始は帰省せず過ごした。

「アレンジもボーカルも変わったけど、ういやあ録ってなかつたよな」と和田。「音源作んの?」と弟子丸が人差指と中指に煙草をほさんで吐息する。

「アレンジもボーカルも変わったけど、ういやあ録ってなかつたよな」と和田。「音源作んの?」と弟子丸が人差指と中指に煙草をほさんで吐息する。

和田幹央(わだ・みきお)
花屋。ドラマ・マイペース。

「まつだ
松田くんたよ」
「男の子?」と和田。

「女の子」
「なんで?」と土家とカシマ。回答は得られなかった。

SHADEの在原店長にはスリーピース編成時代の環の音源を渡していた。木場の手元にはSHADEでの12月のイベントを撮影したビデオも送られていたのを環の面々は知らなかつた。

「ベースがいいねえ! 僕頑張つてるベー
シスト大好き。ベーシストは誰?」

と尋ねられてカシマが、はあいと控えめに手を上げる。

サングラス面の木場がオーバーリアクションに驚いてみせる。あらゆる仕草が「アメリカ帰り」っぽい。

「わあ、君? ライブと雰囲気違つねえ」
「チープの演奏は弟子丸さんだからボクと
「ネコちゃんナデナデしててる人が弟子丸さ
んです」と和田が補足。その弟子丸は膝の上を猫に抱きながら無心で頭を撫でている。

そして木場の言うCDリリースの条件や報酬を話されるままに聞いていたが、強烈な重力で己の世界観の方向に脱線しつづける木場のマシンガントークのせいで話が頭に入らない。

「最近すっごくセーラーが良い感じで
色々なことがうまく回っていてね、僕を中心
に」

「向ひうじや参ったよ、僕年末年始はアメリカにいたんだけどねえ、知り合いが代々やつてゐる小さなホテルのニューアイヤーパーティにどうしても来てくれつていうんだけ

ど、奴らいつまでも引き留めて帰してくれ

ないし。来年までひじいで弾かせるつもりか、うちには猫がいるんだ! って何とか逃げこれたよ】

「今はもうど輪っかもよく見る頃じゃ
ない? でもこの角度だとフフーフーより

空から見てる大きな目みたい」

そして沈黙が訪れて、いま質問されてい
たんだと環の一同は気付いて顔を見合わせ
た。「リーダー?」と聞き返す。

「バンド名決めた人」と木場。半月型に笑
うその大きな口。

土家以外の面々がいっせいに土家を見
て、土家は「ええ?」と声を漏らす。

「いいねえ、服のセンスも言葉もグッド。
それどう?」

「いいねえ、服のセンスも言葉もグッド。
それどう?」

よう】

相手の気分を害さないような言葉の裏で
逃げこれたよ】

木場は室内でも外さない真っ黒いサング
ラス越しに、木場に問う土家を見据える。

その向こうにあるはずの両の眼は誰にもま
つたく冴えない。

「そりゃあ、最初にデカめの資を作つと
も空から見えてる大きな目みたい」

そして沈黙が訪れて、いま質問されてい
たんだと環の一同は気付いて顔を見合わせ
た。「リーダー?」と聞き返す。

「バンド名決めた人」と木場。半月型に笑
うその大きな口。

土家以外の面々がいっせいに土家を見
て、土家は「ええ?」と声を漏らす。

「いいねえ、服のセンスも言葉もグッド。
それどう?」

ほんのわずかな時間だが、穴が空くほど
見つめられて、カシマはひきこむ走った。

「ボクの顔に何かついてます?」

木場太陽 (きば・たいよう)
木場は室内でも外さない真っ黒いサング
ラス越しに、木場に問う土家を見据える。

その向こうにあるはずの両の眼は誰にもま
つたく冴えない。

「そりゃあ、最初にデカめの資を作つと
も空から見えてる大きな目みたい」

そして沈黙が訪れて、いま質問されてい
たんだと環の一同は気付いて顔を見合わせ
た。「リーダー?」と聞き返す。

「バンド名決めた人」と木場。半月型に笑
うその大きな口。

土家以外の面々がいっせいに土家を見
て、土家は「ええ?」と声を漏らす。

「いいねえ、服のセンスも言葉もグッド。
それどう?」

●Finedge Records
(アトマイオジジローネ)

渋谷に事務所をかまされたインハイ
ズレーベル。

木場太陽 (きば・たいよう)
木場は室内でも外さない真っ黒いサング
ラス越しに、木場に問う土家を見据える。

その向こうにあるはずの両の眼は誰にもま
つたく冴えない。

「そりゃあ、最初にデカめの資を作つと
も空から見えてる大きな目みたい」

そして沈黙が訪れて、いま質問されてい
たんだと環の一同は気付いて顔を見合わせ
た。「リーダー?」と聞き返す。

「バンド名決めた人」と木場。半月型に笑
うその大きな口。

土家以外の面々がいっせいに土家を見
て、土家は「ええ?」と声を漏らす。

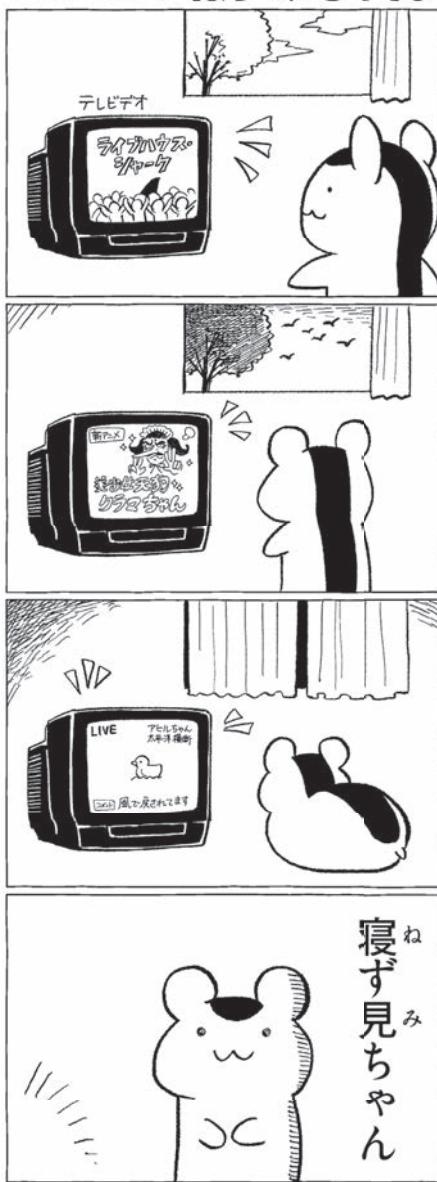
「いいねえ、服のセンスも言葉もグッド。
それどう?」



松田くん

の男子だった。

日曜漫画劇場 ねずみちゃん



「その音源は焼いてお渡します。社長の態度はあんなんだけどちゃんとしたのが発売されます。デザインの手配も込み、必要ならアーティストもうちで撮りますよ」「どうも。」どちらの何も分からず『来て』と言われて来たもので……』と王家も頭を下げた。「正直、おたくの得意なジャンルなんかもよく分からないまま呼ばれまして」毛利は心底申し訳なさそうに「自分も、

作戦会議inファミレス。
うまい話をいぶかしむ土家に対して、弟
子丸と和田は、大きなリスクがないならや
つてみてもいいんじゃないとかと説きながら
もレコードティングのスケジュールを現実的
に心配する構図になり、カシマはや士家
の側に寄りながらもどちらに味方すべきか
分からなかつた。

使ってください 本当にません
下手に出て社長の無礼を代わりに詫びた
彼は事務員の毛利と名乗り、掃除用具のほ
かに何枚かのCDのジュエルケースを持っ
てきた。ファイネットレコードで契約通り
にプレスした若手バンドのCDの実例だ。
「こういうのを見せながらきちんと説明す
ればいいのに……」一応、うち、本当に音楽
レベルやつて、こういう感じで出して
ます。CDは出ます。流通経路は持ってる
し、レベルのファンもいるみたいですね。
こんな感じに」とページに付箋を貼った音
楽雑誌を見せる。

ジャンルはよく分かんないです。強いて言つたまゝの『前衛』っていうか『変なやつ』? 付箋をつけた雑誌のページをめぐる』新譜紹介コーナーの「カラムで取り上げられてくる(Drive to Pluto)」からバンドにマーカー線が引かれていた。机の上に広げられたCDの中にも同じ名前のものがあ

A4見開きの紙面に60000字の小説を掲載した結果、ぎゅうぎゅうづめの組版になつたことをお詫びします。◆今号のフリーペーパー『海辺新聞』は2つ折り・4ページの仕様になった。通常版のA4ペラよりも新聞らしい見た目になつたが、いかがだろうか。◆私はブログで毎月の活動報告

「事務所に『ヤン』がいるんだぜ?」と弟子丸。『ヤン』だよ、ふわふわだつたよ。それにツッチーさ、あの社長どないぶ似た

あれだけ気楽にカシマをバンドに誘つて
きた土家が、バンドの音楽活動の広がりについても腰が重いのがカシマには不思議だった。弟子丸と和田の意見に対し、土家は「カシマくんにも学業があるからなあ」とのうりくらりとかわしている。

「あの人ぜって一やばいって。あれはカタ
ギじやねーよ」と王家は声のトーンを落と
して繰り返す。
「あんなファッショングのロックおじさんな
んてギター屋には毎日来るぜ」弟子丸は終
然と「一ヒーをする。

「そうかねえ……」と土家は「ごもり、腕組み考え、コーヒーをもう一杯飲み、そして折れた。「俺の気にしそぎかも知れない」と斯くして契約は交わされた。記念受験みたいなものだった。

『海辺新聞』のこれまでの記事を、
シーサイドブックスのウェブサイト
で公開しています。

'2811



バックナンバー配信

『海辺新聞』のこれまでの記事を、
シー・サイド・ブックスのウェブサイト
で公開しています。

Yodaka YAMAKAWA
Follow me on...

Website 小説掲載・ブログ

libsy.net

Fediverse イラスト・設定・ネタ投稿・日常
@mtn_river@misskey.design

2011年からTwitterを利用していましたが、現Xは正直もう見たくありません。
山川夜嵩の最新情報はサイトlibsy.netを購読してください！

Bluesky 告知用
@mtnriver.bsky.social

Twitter 告知用
@mtn_river